

化学工学会粒子・流体プロセス部会 平成 21 年度総会 議事録

日時： 平成 22 年 3 月 19 日（金） 12:00-13:30

場所： 化学工学会第 75 年会（鹿児島大学）F 会場

出席者： 28 名

【現役員より以下 12 名】

堀尾（部会長）、齋藤（副部会長）、上ノ山（副部会長）、甲斐（副部会長、事務局長）、鈴木洋（熱物質代表）、寺坂（気液固分散代表）、鈴木善（流動層代表）、幡野（企画幹事）、吉川（企画幹事）、上山（監事）、塩原（監事）、中里（事務局次長）

【新役員より以下 6 名】

太田（熱物質新代表）、梶原（ミキシング新代表）、後藤（粉体新代表）、西岡（ミキシング新副代表）、本間（気液固分散新副代表）加納（新事務局長）

【部会員より以下 10 名】

橋本（阪大、動画賞受賞者）、諸岡（福岡大）、深井（九大）、清水（新大）、吉田（岡大）、井上（阪大）、川村（アサヒビール）、豊原（日産化学工業）、佐藤（宇大）、水田（鹿大）

報告・審議事項：

平成 21 年度決算案および部会活動報告

- ・甲斐事務局長より、平成 21 年度決算案について資料に基づき説明があった。既に監査を終えており、特に問題ないことから部会長の確認印も済んでいる。審議の結果、決算案は原案通り承認された。
- ・堀尾部会長より、部会の 2009 年度（1 月～12 月）活動報告書について資料に基づき説明があり、承認された。

平成 22 年度予算案および部会活動計画

- ・甲斐事務局長より、平成 22 年度予算案について、各分科会から昨年 10 月にいただいた予算案を合算し、昨年 11 月はじめに部会として取りまとめて化学工学会に提出したものを基に作成した旨、説明があった。この資料は、その後、秋季大会のシンポジウムについてのいろいろなイベントが入ってくるとかなり変わってくるため、本来であれば予算を作り直せばいいが、その後化学工学会に出したものをベースにまた次年度の収支計算書（予算）をつくらないといけなくなってくるので、このままにしている。部会セミナーは今後議論が必要であるが 50 万円の収入を目標値として計上した。各分科会の収入については、分科会から頂いた予算を転写している。秋季大会還付金収入は予想がつかないため、ゼロとした。

ここで堀尾部会長より、ここ2年間の部会セミナーの赤字と対策案についての概略次のような説明があった：

もともと本セミナーは、部会の重要行事として収益性のある形でやるものと設定されてきた。

第一年度は、担当幹事から参加者数が少ないとの見込み情報に基づき、部会長肝いりで、分科会からの動員をお願いしたが、「動員」への批判もあり、第2年度はそのような動員態勢を敷くことはしなかった。しかし、結果的には2年連続して赤字となり、大幅な見直しが必要となった。

この赤字分は事務局財政を大幅に圧迫する形となっており、各分科会に解消のためのご協力をいただきたい。

幹事会での審議の結果、部会セミナーについては、今回のようなことが再発しないよう強力な体制で臨むこととするが、発生した場合には次年度の各分科会の予算規模に合わせて赤字分を回収する内規を作り、今回の赤字分から適用することとしてはどうかということとなった。その際、明文化等は次期事務局・部会長の方で諮っていただくことになる。

以上の説明を受け、そのような方向性と合わせて予算案が諮られ、全会一致で承認された。
・平成22年度(3月～2月)活動計画について、堀尾部会長より1/22の本部提出分に下線部を追加する形の資料に基づき説明がなされ、承認された。活動計画書の更新版は本部に再提出することとなった。

新部会長の選出

堀尾部会長より、幹事会の中で齋藤文良先生(東北大学)が候補の1人として挙がった経緯が報告された。総会の場にて他の候補の選出が出なかったことを受け、齋藤文良先生を次期部会長とすることが諮られ、全会一致で承認された。また事務局長として加納純也先生(東北大学)が承認された。

部会幹事会の役員改選について

加納次期事務局長より、部会幹事会の新役員について資料(別紙)に基づき説明があった。企業の方が複数名加わり産学連携の体質が改善されたこと、また初の女性幹事が加わり男女共同参画の形になった役員構成となり、原案通り承認された。

化学工学会受賞者報告

・選考委員長の上ノ山副部会長より、資料に基づきシンポジウム賞(奨励賞およびプレゼンテーション賞)について説明があった。プレゼンテーション賞については秋季大会の6シンポジウムを対象としたが、実際の受賞者は4シンポジウムからとなった事が報告された。

・堀尾部会長より、技術賞応募者がゼロであった事が報告された。来年度は各分科会から是非推薦をお願いしたいという要請があった。前回の部会の技術賞受賞者(西尾(ライオン)・高橋(山形大))が今回の学会の技術賞を受賞したといういい流れがあるので、是非この流れを絶やさないようにしてほしいとの要請があった。

・選考委員長の齋藤副部会長より、フロンティア賞の選考経緯について説明があった。各分科会から2件ずつ計10件申請していただき、評点制をとり各分科会より選考委員を選出して審査した。内容がフロンティアに富んでいるか、今後どういう発展があるかなど、各審査項目について点数をつけた総合得点で順位付けした。上位から下位まで拮抗したが、1件だけ論文が解説となっていたので、残念ながら評価点が低かった実態が説明された。選考委員長の所属する研究室の論文が結果的に受賞することになったが、公平に審査した旨、報告があった。

動画作品賞について

選考委員長の後藤先生(岡大)より、選考経緯について説明があった。今回応募数は3件で、すべて研究部門で審査された。審査員は11名でそれぞれ個別に審査し、その集計結果をもとに再審議し決定した。学術的な内容はいずれも甲乙つけがたかったが、規程に忠実に従いそれだけで完結した作品となった1件(橋本先生、阪大)が今回受賞した。

動画作品賞の名称変更について

堀尾部会長より、動画作品賞の名称変更について、規程の改正案の資料に基づき説明があった。今後は動画賞と簡略化した名称となること、またその動画作品賞規程の改正案が承認された。

分科会活動報告

各分科会代表より、平成21年度の各分科会の活動報告があった。

部会・分科会の活動計画

各分科会代表より、平成22年度の各分科会の活動計画があった。

その他

出席者の佐藤先生(宇大)より、化学工学会宇都宮大会(2010.8-19-20)の開催について、ちらし資料に基づき説明があった。

部会長退任挨拶

堀尾部会長より、2年間の活動を振り返り、退任のあいさつがあった。合わせて、現事務局の功績への感謝の意が表明され、表彰状ならびに副賞が甲斐事務局長、中里事務局次長に贈られた。

授賞および動画賞受賞作品上映会：

平成21年度部会賞（シンポジウム賞奨励賞、フロンティア賞、動画賞）表彰
総会に引き続き、シンポジウム賞奨励賞、フロンティア賞、動画賞の授与式が執り行われた。

動画賞受賞作品上映会

受賞者の橋本先生（阪大）による動画賞受賞作品の上映会が開催された。